えひめ消防

発行人
公益財団法人 愛媛県消防協会
松山市築山町１番35号
電話(921)8517番
会長　大西　浩司

一部53円

本年も宜しくお願いいたします

～年頭の辞～

公益財団法人
愛媛県消防協会
会長　大西（おおにし）　浩司（こうじ）

令和5年の輝かしい新春を迎え、会員の皆様をはじめ、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、県民の安全・安心を守るため、年末特別警戒にあたられた消防団員と消防職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、幸いなことに「平成30年7月豪雨」のように気象庁が名称を定めた気象・地震・火山現象はありませんでしたが、全国各地では７５０件を超える大雨による土砂災害が発生し、尊い人命と貴重な財産が失われました。また、愛媛県内では4月に四国中央市で鎮火までに3日間を要した林野火災が発生し、四国中央市の消防本部と消防団の皆様は、長時間にわたる活動をされるなど、近年は毎年のように大きな災害が発生するのが当たり前のようになっています。

さらに、発生が懸念されています南海トラフ巨大地震ですが、前回、昭和21年に発生した昭和南海地震から76年が経過し、今後30年以内に発生する確率が70から80％と言われており、更なる地域防災力の強化が必要とされています。

このような状況において、新型コロナウイルスの感染者が令和2年1月に日本国内で初めて確認されて以降、日常生活をはじめ消防行政にも様々な影響が出て、消防団も十分な活動ができていないこともあり、昨年12月に総務省消防庁から発表があったように全国の消防団員数が80万人を割り込むといった危機的な状況となっています。

私が、松山市消防団に入団した当時は、入団待ちの人が大勢いて、なかなか入団ができなかったことから、このような状況になるとは思いもよりませんでした。今後、少子高齢化が進むなかで、消防団員のなり手を確保するためには、私たち一人ひとりが誇りをもてる「消防団」としていくことが大事だと考えています。「地域のために活動し、役立っている」と消防団員が高い意識を持ち、地域に根付き、県民に信頼される消防団を目指して取り組みたいと考えています。

今後も引き続き、女性防火クラブ、自主防災組織をはじめとする皆様のご理解とご協力を得ながら、愛媛消防の更なる強化のため精進をして参る所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、本年が災害ない平穏な年でありますとともに、皆様の益々の御健勝と御多幸を心より祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

愛媛県知事
中村（なかむら）　時広（ときひろ）

平素、消防関係者の皆様方におかれましては、消火、救急、救助はもとより、地域防災の中核的存在として、住民の生命と財産を守るため、日夜献身的に活動されており、深く敬意と感謝の意を表します。

また、長引くコロナ禍においても、感染防止に細心の注意を払いながら、活動を継続いただいており、重ねてお礼申し上げます。

現在、県では、市町や医療機関等との緊密な連携の下、医療体制の確保やワクチン接種の促進などの感染対策を講じるとともに、大きなダメージを受けている地域経済の回復や生活が困窮している方々に寄り添ったきめ細かな支援に力を注いでいるところです。

更に、頻発・激甚化する風水害や、近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震などの大規模災害に備えるべく、「防災・減災対策」を県政の3本柱の一つに掲げ、緊急避難道路や河川、砂防堰堤、港湾、海岸等の公共土木施設の整備・改修に取り組んでいるほか、自助・共助による地域防災力の一層の向上につなげるため、自主防災組織の活性化とその中心的役割を担う防災士の養成に努めるなど、ハード・ソフトの両面にわたる対策を推進しています。

加えて、発災時の初動対応において重要な役割を果たす消防団についても、基本団員の確保はもとより、機能別・女性団員の加入促進などを通じた活動の充実に努めているところであり、引き続き、貴協会をはじめ、市町や消防機関等と連携した「オール愛媛」体制で災害に強い地域づくりを進めていきたいと考えております。

どうか皆様方におかれましては、今後とも、消防への住民の期待と信頼にこたえるため、心身の鍛錬や技術の練磨に精進され、県民が安全・安心で快適に暮らすことができる「愛顔あふれる愛媛県」の実現にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、公益財団法人愛媛県消防協会のますますの御発展と、皆様方の今年一年の御健勝、御多幸を祈念申し上げます。

愛媛県消防長会
会長
金澤（かなざわ）　英雄（ひでお）

令和5年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様方には、日頃から地域の安全・安心を確保するため、昼夜を分かたず消防・防災活動にご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、依然として新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、夏頃には、感染者増加の影響で、これまでに例を見ないほど、医療負荷が増大し、救急車の出動件数や搬送困難事例が大幅に増加しました。県内の消防本部でも、出動体制の見直しや、救急車両で、感染回避行動と適正利用の広報活動をおこなうなど、各本部が工夫し、難局に立ち向かいました。

このような中、愛媛県消防長会でも、従来の手法を見直し、消防活動の基本となる訓練や研修がこれまで同様に実施できるよう、知恵と工夫を凝らした取組を進めています。８月に内子町で行われた緊急消防援助隊合同訓練では、活動隊員の感染対策と衛生面向上を目的とした方法を取り入れ、３年振りに宿営訓練を行ったほか、対面を伴わない方法での会議や研修も開催し、消防職員のスキルアップと消防情報の共有を図り、常備消防の強化に取り組んでいます。

しかし、頻発する自然災害に加え、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震などの大規模災害に的確に対応するためには、地域に根差した消防団を中心とした、自主防災組織や女性防火クラブなどの防災関係機関と各消防本部の連携が不可欠です。社会情勢の変化や技術革新等、消防を取り巻く環境はめまぐるしく変化していますが、変わらないものがあります。それは、「住民の命を守る」という消防の最大の目的です。今後とも消防関係者の皆様には一層のご協力とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が明るく平穏な年となりますよう、また、貴協会の益々のご発展と消防関係者の皆様方のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

「新年おめでとうございます」

公益財団法人　日本消防協会
会長　秋本（あきもと）　敏文（としふみ）

いろいろ気がかりなことはございますが、愛媛県下の無事平穏、消防関係の方々など県民の皆様のご健勝ご多幸をお祈りする気持ちのもと、新年のおよろこびを申しあげます。

愛媛県は、山間部、平野部のほか広域にわたる海岸部があり、そのなかで、芸予地震や台風、大雨などいろいろな災害と闘ってこられました。そして、最近は世界的な気候変動のもと、大きく様相を変えた災害が多発しております。コロナウイルス問題まで加わっております。そのような状況で、消防関係の皆様は、県民の皆様の生命財産を守るという消防使命達成のため、日夜、大変なご尽力を頂いております。心から敬意を表しますとともに、ご支援いただいているご家族を含めて深く感謝申しあげます。

東日本大震災後、今後の災害対応の基本的な方向として、地域防災力の充実を進める新たな法律が制定され、地域にあっては消防団が中核となりながら、常備消防との緊密な連携のもと、地域の皆様の総参加総活躍による地域防災体制の充実強化を進めることとされました。愛媛県は勿論、全国各地でそのような方向での体制強化が進められていますが、一方では、近年、全国的な消防団員の減少傾向が見られ、昨年は遂に78万人と、80万人を下回る状況となりました。これは日本消防全体にとって重要な問題であり、各消防団におかれましては、それぞれの状況に応じながら、団員確保に努めておられます。

日本消防協会におきましても、全国の皆様のご意見をうかがいながら、団員の増員確保に向けての総合的な考えを関係の方々に要請するなどしてまいりました。その過程で全国の皆様の強いご意見に消防団のＰＲの充実ということがありましたので、このことを強調することもいたしました。今建設を進めています新しい日本消防会館におきましても、１階に設けます日本消防防災情報センターの展示を活用するなど、いろいろな面でさらに努力してまいります。

愛媛県消防の皆さん、今年もいろいろな課題への対応にご苦心ご苦労が多いかと存じますが、県民の皆様の生命財産を守り抜くため、事故なく、無事にご活躍頂きますよう願っております。

県下の無事平穏、消防関係の皆様のご健勝ご多幸を重ねてお祈り申しあげまして、新年のお祝いの言葉とさせて頂きます。

消防団合同訓練

消防団合同訓練を通じて

西条市消防本部　矢野晋也

近隣市町との連携強化を目的とし、消防団合同訓練を実施しました。

今回の訓練は、市境にある山林から出火したという想定で実施し、その中で四つの連携を確認しました。

まず一つ目が、愛媛県消防団広域相互応援協定に基づいた、近隣市町の消防団との連携です。事前に実施した情報伝達訓練による応援要請から、消火活動まで消防団同士での連携を確認することができました。

二つ目が、東予広域生コンクリート協同組合との連携です。本市を含む東予地域では、有事の際、生活用水等の確保を目的とした協定を同組合と締結しており、今回の訓練ではミキサー車を使用しての補水作業を実施しました。有限の消防水利において、水の確保は消火活動時の絶対条件であることから、このような補水手段があることは非常に心強く感じました。

三つ目が、ドローンとの連携です。山林火災などの広範囲における災害に対し、上空からの情報は非常に有効で、飛び火や延焼範囲の確認などに役立ちます。ドローンによる情報をリアルタイムで映しながら、現場指揮本部や各消防署を含む関係機関と情報共有をしつつ、戦術を考えていければと思います。

四つ目が、登山アプリ「ヤマップ」を使用しての連携です。愛媛県と株式会社ヤマップは、安心・安全な県内の登山環境の構築を通じ、相互に連携して地域振興を図ることを目的とし、今年六月に連携協定を結びました。「ヤマップ」は、主に行方不明や道迷いなどの捜索活動時に位置情報や登山軌跡を確認できるアプリです。今回は本来の用途とは違いますが、飛び火箇所へ別動隊が消火へ向かう想定で、位置情報の取得を利用し、現場指揮本部との連携が円滑にいくよう、取り入れました。

今回の訓練を通じて、近隣市町や各関係機関との繋がりが、いかに重要であるかを再認識することができました。指揮本部における情報の集約、さらに集約した情報を迅速かつ正確に下命し、刻一刻と変化する状況の中で、指揮命令系統の確立は、非常に重要であると感じました。協力体制を確固たるものにするためには、今まで以上に「顔の見える関係」を築いていかなければならないと感じました。

また、ドローンやヤマップなど、既存の資機材や、新たに導入されるツールを活用し、災害現場の活動をより効果的に行うことが重要であると感じました。

最後になりますが、合同訓練の実施にあたり、ご協力をいただきました各関係機関ならびに、消防団員の皆様に感謝申し上げます。

補水作業

中継

現場指揮本部

集合隊形

合同訓練について

令和2年3月末に正式に市町間の協定が締結されて以降、東中南予支部単位で合同訓練を実施している。コロナ禍の中、東・中・南予とも日程や訓練の組み立てに苦慮しながらも、地域の人々の大切な命を守る消防団として積極的に訓練参加していただいた。

合同訓練自体は今年で４年目となり、市町連携の機運が醸成されつつあるが、今後は多様な消防団活動を支える装備の確保や、それを支える情報連携と後方支援の充実を図るため、中長期的に合同訓練を実施が望まれる。

砥部消防署　河野佑貴

中予圏域消防団合同訓練

令和4年11月27日（日）9時50分頃、松前町内住宅密集地において大規模火災が発生。松前町消防団及び伊予消防等事務組合出動隊で消火活動を実施するが、折からの強風及び飛び火により火災が拡大、管内消防力では対応不可能となり、愛媛県消防団広域相互応援協定に基づき中予圏域の消防団に派遣を要請した想定で訓練を実施しました。

この訓練では、伊予消防署指揮隊と松前町消防団の連携及び通信情報共有体制の確立、また、受援消防団と応援消防団の連携及び情報共有体制の確立を主眼として行われました。

初動においては、伊予消防署指揮隊、松前消防署消防隊、松前町消防団が連携協力し、災害の情報収集と共有、活動方針の決定、消火活動を開始しました。しかし、強風と飛び火により火災は延焼拡大し消防力が低下したため、愛媛県消防団広域相互応援協定に基づき中予圏域の消防団に応援要請を開始。駆け付けた中予圏域消防団に情報共有を行い、適切な指示をし、迅速な長距離中継送水活動が開始されました。

今回の訓練において、火災の延焼状況を確認するために、伊予消防署指揮隊によるドローンを活用することにより、延焼状況の把握と迅速な応援要請判断を行うことができました。

災害時には、常備消防との連携はもちろんのこと、適切な判断と迅速な消火活動が求められます。この訓練において、指揮命令系統から始まり、消火活動に必要なホース延長・放水活動を行い、各市町消防団員の互いに顔の見える関係を築くことができ、大変有意義なものとなりました。

愛媛県消防団広域相互応援協定が締結され、市町の枠を超えて活動する体制が整った今、横の連携を一層強化し、消防活動の更なる向上を求め、訓練に励む必要があると感じました。

愛媛県総合防災訓練に併せて

内子町役場
総務課危機管理班
平野博之

令和４年度愛媛県総合防災訓練が内子町内で行われる事に併せ、近隣市町消防団の連携強化・確認を目的に、火災想定の合同訓練を実施しました。令和４年８月27日午前８時30分に発生した地震により大規模林野火災が発生したとの前提のもと、総合防災訓練のメイン会場である内子運動公園総合グラウンド山間部で火災が発生。内子町消防団単独での対応が困難と判断し、愛媛県消防団広域相互応援協定に基づき内子町から愛媛県へ５名程度×２隊の応援要請を発出し、大洲市及び西予市の両消防団が集結場所に参集しました。

内子町消防団では火災発生を受けて、グラウンド下の駄場池に元ポンプ（内子町消防団小田分団配備　救助資機材搭載型消防ポンプ自動車）を部署し、大洲市消防団の小型動力ポンプへホース延長し接続。続けて西予市消防団の小型動力ポンプへ延長・接続し、火点への放水を行い、無事、訓練を終了することができました。

また他の消防団との情報共有は、県から配備された広域相互応援用簡易無線機を用い、ホース延長状況やポンプ設置位置、送水圧などについて消防団員同士で連絡を取り合うなど、常に連携をとりながらの訓練となりました。

内子町消防団では、主に分団単位で中継送水訓練を行っていますが、他の分団、さらには他市町と連携した中継送水訓練を行う機会は非常に少ないため、お互いに確認を行いながらの訓練実施となりました。

参加された小田分団第３部長からは、「このような大規模な訓練に参加する事はめったにないが、常に無線で連絡を取り合った事でうまく送水できたと思う。さらに連絡を取り合っていても、指揮命令系統がしっかりしていないとスムーズに送水できない。今回の訓練ではそういう側面もしっかりできていたと思うが、実際の現場ではそうではない場面もあるかもしれないので、この経験を消防団内で共有し、さらに訓練を重ねて有事に備えたい。」と話されていました。

今後も消防団が、助け合い、支え合う活動の絆となり、さらなる災害防除に努めてまいりたいと存じます。

全国女性消防団員活性化徳島大会に参加して

松山市消防団女性分団
団長　加藤千晶

松山市消防団女性団員採用20年目の今年、いろんな思いをめぐらせながら徳島大会に臨みました。活性化大会にはこれまでも数回参加しましたが、回を増すごとに発表のレベルが上がり、全国の代表者の意気込みを肌で感じました。

今回の徳島大会の内容はどれも魅力的で、延期となった2年分の徳島の方たちの想いが詰め込まれているように感じました。防火防災啓発劇は脚本が面白く、女優・芸人さん顔負けのキャラの濃い役者さんが登場し、見応えがありました。メダリスト・有森裕子さんの記念講演は、何かを一生懸命することで、自分や周りの喜びにつながり、皆が応援してくれ、仲間ができ、自分の存在価値を見つけられるという実のあるお話でした。私自身もこれまでの経験から、女性団員だからこそできることを考え、一生懸命実践することを積み重ねてきたことで、得られたものが多くあり、共感できるところが多くありました。

また、パネルディスカッションでは、消防団員入団促進プロジェクトチームを作り、成人式でＰＲ動画を流してのキャンペーンをしている消防団や、ＰＴＡや児童対象の防災教室を開き、身近な話題・方法で防災意識向上のために試行錯誤されている消防団のお話を聞き、それぞれが地域性を考え、様々な取組をされていることを知りました。このような全国各地の女性消防団員ならではの趣向を凝らした活動をおおいに見習って、今後の活動につなげなくてはと思いました。

松山市女性団員の活動の中心は、各地域の防災訓練や救命講習に参加し、応急手当の普及啓発を行うことです。手当の方法や心肺蘇生法の習得によって、防災を身近に感じてもらい、地域防災力の向上につなげられるよう、日々試行錯誤しながら精進しています。

私は、昨年夏機会をいただいて、消防団ＰＲ事業の試みとして、市内を走る路線バスのラッピングデザインに松山城と道後温泉、ポンプ操法をしている男性団員の雄姿を描きました。市内を私のデザインしたバスが走ることで、少しでも消防団のＰＲにつながり、防災に対する関心を持っていただけたらと願っています。今回のＰＲ展示コーナーでもこの写真を展示したことで、松山市の取組を全国にアピールできました。

松山市では、女性団員の世代交代が今後の大きな課題であるため、今回、活性化大会に参加して得ることのできた知識や経験をしっかりと次世代に伝え、松山市消防団女性団員の次の一歩につなげていきたいと思っています。

● 点検・報告・整備・工事
○ 消防用設備等・特殊消防用設備等
○ 防火対象物点検・防災管理点検
○ 防火設備点検
○ 連結送水管の配管耐圧試験
○ 消防用ホース耐圧試験

● 消防用機器等の販売
○ 各種消火器
○ 住宅用火災警報器
○ その他各種防災用品
○ 消防ポンプ自動車

～高度な技術で安心をお届けする～
株式会社　四国消防
〒790-0952　松山市朝生田町１丁目７番21号
電　話　（０８９）９３４－４８００
ＦＡＸ　（０８９）９３４－５５３３
E-mail : yons@ss4800.jp

最強コンビ
ポンプ操法

トーハツ VCPROIII

キンパイスーパーランナーホース
株式会社 ヤマダ　1910年創業
愛媛県イメージアップキャラクター　許諾番号 2805024　みきゃん
TOHATSU　小型消防ポンプ VF シリーズ　電子制御 燃料噴射装置
株式会社 吉谷機械製作所　消防ポンプ自動車　化学消防自動車
テイセン　テイセン救助工作車　キンパイ消防ホース
YAMATO PROTEC　ヤマトプロテック　粉末 (ABC) 消火器
〒790-0062　松山市南江戸１丁目２番26号
TEL: (089) 947-2295　|　FAX: (089) 945-3976　|　www.yamada-pump.co.jp

第29回全国消防操法大会に参加して

松山市消防団
北条分団
部長
塩谷　健太郎

令和４年10月29日に千葉県市原市にて開催された第29回全国消防操法大会に愛媛県の代表として参加させていただきました。松山市消防団として初めて愛媛県消防操法大会での優勝を成し遂げましたが、今回のポンプ車操法出場チームの選手一同が全国大会出場という目標を共有してくれたことで、一部の選手交代がありましたが、５年以上の期間をかけてチームの団結を高め、訓練を継続してきた結果が報われた形となりました。選手以外の分団の団員だけでなく、松山市消防団全体のサポートや消防局の指導者の皆様、地元住民の皆様のご指導や支援、協力があったからこその成績だと思っています。何よりも、操法訓練に参加することに理解をしてくれた家族の支えには深く感謝しています。

さて、今年度より操法実施要領が変更され、パフォーマンス的要素を取り除いた実践的な操法となっていることから、消火活動の技術や安全性、機材の取扱いの確実性に焦点をあてた審査がされるようになっています。災害現場でいかに迅速かつ安全に消防団員が活動できるかを左右するのが操法訓練です。消防団員である以上は、全員が実施できるのが当然の姿だと思います。選手だけができればいいのではなく、団員全員が操法を実施できるのが本来の操法大会だと思っています。実際にこれまで全国大会に出場されてきた県内の他市町の消防団には、かねてから選手層の厚さに驚かされてきました。それはつまり、当該地域の消防団の災害対応能力の高さの証明であると考えています。

全国消防操法大会に出場された他県のチームにも共通して、サポートされている団員の方々の知識、配慮、実行力の高さが見られ、選手が操法に集中できる体制を構築されていることが印象的でした。肝心の成績については、全国大会の雰囲気に呑まれてしまい、普段の訓練でもしたことのないような失敗もあり、目標としていた上位入賞には届きませんでしたが、愛媛県の消防操法のレベルは全国的にみても決して劣るということはないと実感しました。

今回の貴重な経験を糧に、松山市消防団の底力を一段とアップできるように貢献していきたいと思います。

愛媛県消防学校
越智　悟活

令和４年10月29日に第29回全国消防操法大会が千葉県消防学校で開催されました。

今回、日本消防協会から委嘱を受け、全国各地から選ばれた消防団が日頃の訓練により培った消防技術を競うこの大会で、小型ポンプの部の審査副班長として、事前準備や大会当日の審査などに携わりました。

まず、新型コロナウイルス感染症による中止を経て、今大会が４年ぶりに無事に開催されたことは、とても感慨深い思いです。日本消防協会の秋本会長の「どんな形であれ今回は開催したい」との熱望を受け、協会、千葉県消防学校及び審査員が一丸となって開催に向けて準備を進めました。様々な制限がある中で、怪我や事故が無く無事に終えられたことは、関係する全ての方々のご尽力によるものと感謝申し上げます。

また、今回の操法大会では待機線・集合線が廃止され、待機位置についた状態からの開始となりました。これは、訓練礼式が過度に団員の動作をそろえるなど、実際の消火活動に役立たない技術を競っているとの批判や、消防団員の加入の弊害となっているという実状を踏まえ、審査基準を実践的なものに見直したことによるもので、今大会が初めての試みでした。

賛否はあると思いますが、各県代表の団員の士気、規律、遵守事項の徹底、気迫溢れた行動を目の当たりにし、「消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与すること」という消防操法の本旨を改めて理解する機会となりました。

最後に、愛媛県代表として出場した松山市消防団の皆様、本当にお疲れ様でした。県大会前から熱心に練習を重ね、全国大会への出場が決まってからも、大会に向けて更に研鑽されましたことに心から敬意を表します。今後の愛媛県の操法技術の発展と向上に必ずや活かされるものと確信しています。皆様の姿に感銘を受け、私自身も地域防災や消防活動の充実発展に寄与できるよう、日々研鑽し訓練に励んでまいりたいと思います。

各都道府県代表（ポンプ車の部21隊、小型ポンプの部24隊）が出場した全国大会。

優勝は、ポンプ車の部では鹿児島県・中種子町消防団（一線・二線合計タイム111・33秒、総合得点　192・0点）、小型ポンプの部では福岡県・新宮町消防団（タイム41・97秒、総合得点97・0点）でした。

日頃の成果を存分に発揮する選手やサポートの姿に、様々な学びがあり、改めて意義のある大会であることを実感しました。コロナ禍により、規模を縮小したかたちではありましたが、全国大会を開催いただきました日本消防協会をはじめ各機関の皆さまに心から感謝いたします。

http://www.ogawa-pump.co.jp
OGAWA 仕様　消防ポンプ自動車(Made In 愛媛)

豊富な収納力が1台2役分の活躍を。
多くの資機材を積み込みながらも、初期消火に力を発揮する水槽を搭載。
コンパクトにまとめあげたCD-I
小川ポンプ工業株式会社
愛媛支社
〒790-0045 松山市余戸中６丁目９番52号
TEL: 089-972-2392　FAX: 089-972-2400
E-mail: ehime@ogawa-pump.co.jp

扱いやすさとタフな空冷エンジンを採用
空冷式消防ポンプ
FT500 B-2級
FT450 B-3級

Fi(電子制御燃料噴射)に間接水冷ラジエータを搭載
水冷Fi式消防ポンプ
FF500ZXi B-2級
FF450ZXi B-3級
操法で活躍!

SHIBAURA
信頼と実績のキャブレタシリーズ
水冷式消防ポンプ
FK500 B-2級
FK450 B-3級
FK400 B-3級

シバウラ消防ポンプ愛媛県総代理店
(有)愛媛芝浦ポンプ商会
TEL.089-933-6355　FAX.089-933-9550
〒790-0911 松山市桑原2丁目3番19号